

釧路開発建設部における主な共創の取組

釧路開発建設部 地域連携課 ○田村 和杏
井川 大輔
部長 坂 憲浩

第9期北海道総合開発計画が、令和6年3月12日に閣議決定された。各開発建設部において、地域が直面する様々な課題を解決するために、多様な人材・主体の連携、協働による地域共創の取組を進め、計画の実効性を高めることが重要である。本報告では、釧路開発建設部における令和6年度の地域共創の主な取組を紹介するとともに、今後、2050年の輝く釧路、根室地域の展開に向けたテーマや方向性について、検討した内容を報告する。

キーワード：第9期北海道総合開発計画、連携、協働、地域共創

1. はじめに

第9期北海道総合開発計画¹⁾(以下「9期計画」)における2050年の北海道の将来像を見据えて、地域の強みでもある「食」、「観光」を一層強化し、「脱炭素化」におけるポテンシャル等を最大限に活かしつつ、これらの価値を生み出す生産空間を維持・発展させる施策を推進することとされている。

また、計画の推進に当たっては、官民の垣根を越えた「共創」により地域の課題を解決する社会の実現が必要であり、地域の多様な人材・主体と連携、協働の促進を図るべく、釧路、根室地域の未来について地域の方々と一緒に語り合うキックオフイベントの開催や、部内及び関係機関等との共創による取組を行った。本報告では、釧路開発建設部における令和6年度に実施した主な共創の取組を紹介するとともに、今後の共創の展開に向けたテーマや方向性について、検討した内容を報告する。

2. 地域共創の取組の状況

釧路開発建設部では、9期計画以前からも「かわたびほっかいどう」、「かわまちづくり」、「シーニックバイウェイ北海道」、「サイクルツーリズム」、「みなとオアシス」、「北海道マリナビジョン」、「わが村は美しく北海道」など、多様な主体と共創しながら、北海道の価値を高める地域づくりを推進している。

既存の共創の取組をさらに連携強化しつつ、9期計画以降に共創の環が広がり、新たに生まれた共創の取組をプラスしながら着実に、地域の抱える課題を解決できるよう計画の実効性を高める方策を推進していく必要がある。

このため、9期計画の初年度である令和6年度は、11

月にキックオフイベントを開催する予定であったことから、イベントに向け、着実に計画の浸透を図るべく、まずは市町村、関係機関と意見交換を図りながら、それと同時に部内の職員にも一人一人が計画の担い手であるという認識を持ってもらえるような様々な取組を推進し、地域の将来の担い手である学生世代との交流、そしてキックオフイベントに繋がるようなロードマップ(図-1)に基づいた取組からスタートした。

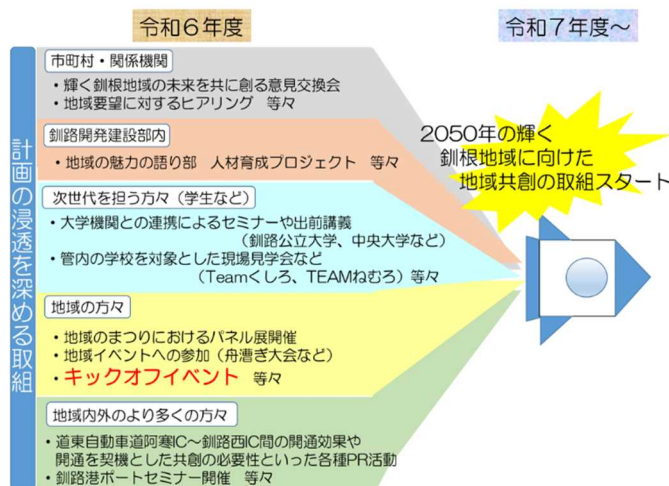


図-1 地域共創の取組に向けたロードマップ

キックオフイベントの実施によって、地域の方々に、北海道総合開発計画が地域の発展に果たしてきた役割と共創の必要性について理解を深めてもらうとともに、釧路開発建設部の令和6年度の一大イベントとして、12月22日(日)に開通した道東自動車道阿寒IC～釧路西ICの開通PR活動を通じて、地域内外の多くの方々に開通効果や開通を契機とした共創の必要性のPR活動を行った。

これらの活動を通じて、令和7年度から本格的に2050年の輝く釧根地域の実現に向けた地域共創の取組を推進

できるような体制を構築していく。

下記に、図-1で示す「市町村・関係機関」、「釧路開発建設部内」、「次世代を担う方々」、「地域の方々」、「地域内外のより多くの方々」それぞれに対して、計画の浸透を図りながら、地域共創に向けて行ったそれぞれの取組の一部を紹介する。

(1) 市町村・関係機関との共創

a) 輝く釧路地域の未来を共に創る意見交換会

釧路、根室地域の関係者と地域課題別に意見交換を順次実施しており、現時点で、根室、羅臼、釧路地区トラック協会と実施しており、今後も意見交換を行っていく予定である。写真-1に意見交換会の様子と表-1に意見交換でいただいた主な意見を示す。



写真-1 意見交換会の様子

表-1 意見交換会の主な意見

分類	主な意見内容
人流・物流	・阿寒IC～釧路西IC間の開通を契機として、根室方面、網走方面に向けた広域分散型社会を支えるための高規格道路ネットワークの着実な整備の推進
	・鉄道やバス、高規格道路や国際物流ターミナルなど、地域の生活と産業を支える地域公共交通の維持、確保、充実
	・物流の2024年問題に対して、釧路・根室地域や他地域と連携した共同輸送や中継輸送の検討
	・不凍港である釧路港のポテンシャルを最大限に発揮するための貨物船誘致といったひがし北海道地域への企業誘致活動の推進

意見交換でいただいた主な意見は、道東自動車道阿寒IC～釧路西IC間の開通を契機とした高規格道路整備、地域公共交通維持、物流の2024年問題対応、釧路港活用促進等、人流・物流に関する意見とともに、輝く北方領土隣接地域に向けた施策の必要性についても意見が挙げられた。

b) 地域要望に対するヒアリング

○建設業の人手不足解消に向けた取組の推進

釧路、根室地域の建設業協会等と建設業の人手不足に対する意見交換を行った中で、特に資格が必要な技術者の確保が困難であるという意見が多く、国道の維持除雪における除雪オペレーターの人手不足解消に向け、人材確保に向けた検討を開始した。

また、釧路総合振興局で令和5年11月に管内の各産業を対象に人手不足感のアンケートを行ったところ、どの産業も人手不足感を感じるという結果を受け、各

産業間で人材の奪い合いにならないよう、各産業間で繁忙期、閑散期で人材を補充し合えるような兼業といった形を検討できないか、地域の観光協会と意見交換を行った。観光関係者のうち、特に観光ガイドの方は、ガイドだけでは生計を立てることが厳しく、冬期間が閑散期となっている。このことから、例えば観光ガイドの閑散期である冬期間に除雪オペレーターを兼業で行うことで、収入を向上させ、生計を立てることが可能となり、さらには除雪作業に携わることにより地域の道路事情を把握することで、自らの観光ガイドとして知識を還元することができるなど、双方向に兼業による相乗効果が期待できると考えた。

そこで、釧路、根室地域の国道の維持除雪を行っている維持除雪事業者14社に対して、除雪オペレーターの人手不足感と他業種からの兼業の可能性についてヒアリングを本年度に実施したことから、ヒアリング結果の一部を表-2に示す。

表-2 ヒアリング内容

分類	ヒアリング内容
人手感	・除雪オペレーターの人手不足を感じており、特に除雪オペレーターなどの資格が必要な人材の確保が難しいと実感
年齢構成	・年齢構成がいびつで、40代後半から60代が大部分を占め、次を担う20代はもちろんのこと、特に30～40代前半が極端に少ないため、将来の除雪業務の継続性を不安
他業種からの人材の受入	・雪が毎日降るような地域では無いため、全くの未経験者の場合、どこまで育成に対して支援できるか検討が必要
人材確保に向けた提案	・地域おこし協力隊の活用 ・マッチングイベントの開催

維持除雪事業者14社へのヒアリング結果から、14社全てが現状で除雪オペレーターの人手不足を感じており、さらに除雪オペレーターの年齢層も40代後半から60代が主であり、将来を担う20代、30～40代前半の層がほとんどおらず、将来的に体制を維持できるのか不安を抱えているという回答だった。また、釧路、根室地域は、雪が常に降る地域ではないため、大型トラック運転の未経験者をいかに育成していくかが課題となることから、未経験の他業種からの兼業者の受入の可否については意見が分かれる結果となったが、本取組を通じて除雪オペレーターの確保はもちろんのこと、地域に定住する人口の確保に期待を寄せる声を多くいただいた。

c) 釧路総合振興局、建設業協会等との連携による講習会開催

釧路総合振興局から講師を招き、釧路開発建設部、建設業協会が参加し、建設関係従事者がヒグマ被害に遭わないようにヒグマの生態の学習会を開催した。

(2) 釧路開発建設部内の共創

a) 釧路開発建設部内の事務・技術の全部門の若手職員を対象とした共創の意識醸成

職員一人一人が地域共創の担い手となるためには、地域の魅力を知り、インフラが多方面で活用されていることを理解し、事業の必要性を語れる人材となることが求められている。

そこで釧路開発建設部内の若手職員を対象に、地域の魅力を学び、魅力を伝えられる人材になれるよう、各職員が「地域の魅力とインフラ」の語り部となり、転勤後も各地域で釧路の魅力を語る「地域の魅力の語り部 人材育成プロジェクト」を推進している。本取組を通じて各部門の横断的交流とともに、若手職員のモチベーション向上につながることを期待している。

本年度は、各部門ごとにテーマを決め、全4回実施しており、7月4日に河川部門の「自然の魅力を知る（自然・治水・観光）」をテーマに釧路湿原、細岡展望台、本年度土木遺産に認定された旧岩保木水門の見学、カヌーによる川下りの体験を行った。写真-2に旧岩保木水門見学とカヌーによる川下りの様子を示す。



写真-2 河川部門_当日の見学・体験の様子

9月6日には港湾部門の「バルク港の魅力を知る（流通・脱炭素）」をテーマに釧路港、バルク貨物陸揚げ状況、飼料原料貯蔵施設、RORO船「ほくれん丸」の見学を行った。写真-3に港湾業務艇による釧路港見学、RORO船「ほくれん丸」見学の様子を示す。

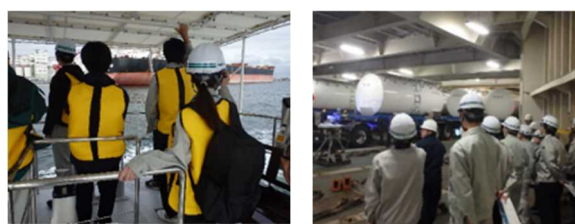


写真-3 港湾部門_当日の見学状況

10月10日には道路部門の「景色の魅力を知る（景観・交通・観光）」をテーマに、12月22日に開通した道東自動車道阿寒IC～釧路西ICの現場見学とサイクルツーリズムとして鶴居村にて自転車試走を体験した。写真-4に道東自動車道現場見学と自転車試走の状況を示す。



写真-4 道路部門_当日の見学・自転車試走状況

11月25日には農業部門の「牛乳日本一の魅力を知る（食・酪農）」をテーマにタカナシ乳業北海道工場、近代化（ロボット化）牛舎の田中牧場、肥培かんがい施設の見学を行った。写真-5に、近代的な牛舎と肥培かんがい施設の見学状況を示す。



写真-5 農業部門_当日の見学状況

下記に、河川、港湾、道路、農業部門ごとに実施したアンケート結果の一部を図-2に示す。

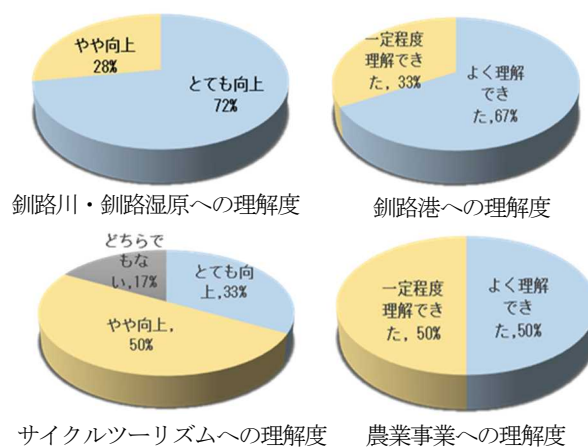


図-2 アンケート結果

釧路開発建設部内の事務、河川、道路、港湾、農業、機械、電気の各部門から20名前後の若手職員が参加し、今回の人材育成プロジェクトを通じて期待される各部門の事業内容や地域の魅力への理解度が向上し、横断的なつながりによる部内の共創の環が広がる結果となり「開発局&釧路LOVE」が深化する結果となった。

(3) 次世代を担う方々との共創

a) 釧路公立大学、中央大学と連携セミナーの開催

令和6年8月21日に、釧路開発建設部、釧路公立大

学、中央大学における合同連携イベントを開催し、地球温暖化と水害の激甚化をテーマとした講演会を開催し、当部の坂部長と、中央大学研究機構の山田 正教授の基調講演を実施した。写真-6にチラシと当日の講演の様子を示す。



写真-6 チラシと山田教授の基調講演の様子

今後、中央大学に農業情報学部が新設される予定であり、研究のためのフィールドがないため、釧路開発建設部、釧路公立大学、中央大学が連携し、新しい学部の研究活動をサポートすることを検討していく。

b) 釧路公立大学での講義の実施

連携セミナーをきっかけとして、釧路公立大学より、地域の産業を学ぶことを目的とした「地域産業論」の特別講師として、当部の坂部長が招かれ、「釧路開発建設部の事業について」と題して、3、4年生約100人を前に、当部の事業の紹介はもちろんのこと、釧路の発展の歴史にも触れ、これから社会に出る学生に向け、地域を知ることの重要性について講演を行った。写真-7に坂部長の講義の様子を示す。

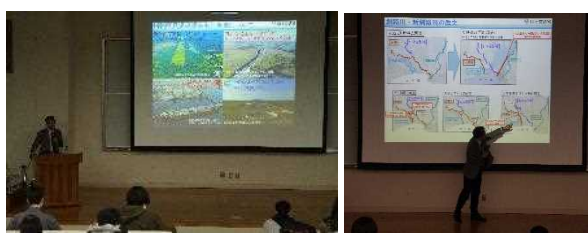


写真-7 坂部長の講義の様子

講義後の学生からのアンケート結果では、就職先として北海道開発局を考えたいという声や、当部が1期計画から8期計画までで進めてきたインフラ整備がいかに釧路のマチや産業の発展に寄与してきたか理解が深まったなど、将来を担う学生の方々に、新たにスタートした9期計画の今後について関心や理解を深化させることが出来た。

c) Teamくしろ、TEAMねむろによる現場見学会等の実施

釧路、根室地域の学校、生徒を対象に、開発行

政に興味をもってもらう取組として、令和5年度に根室地域に配置されている釧路開発建設部出先機関の3事務所（根室道路事務所、根室港湾事務所、根室農業事務所）により「TEAMねむろ」を結成。本年度は根室高校の生徒を対象に、現場見学会を開催した。

さらに令和6年度には釧路地域に配置されている4事務所（釧路河川事務所、釧路道路事務所、釧路港湾事務所、釧路農業事務所）により「Teamくしろ」を結成。本年度開通した道東自動車道（釧路空港IC）近隣の小中学校の児童、生徒を対象に、道路整備事業及び農業基盤整備事業の関わりとその効果を学んでもらえるよう、道路・農業部門における合同の現場見学会を実施した。写真-8にTeamくしろの道路・農業部門における合同現場見学の様子を示す。



写真-8 当日の見学の様子

(4) 地域の方々との共創

a) 地域のまつりにおけるパネル展の開催

地域との結びつきをさらに深めていくため、釧路港まつりなど、地域の様々なまつりに参加、パネル展などを実施し、9期計画と釧路開発建設部が進める各事業に対する理解を深めてもらう活動を行った。

b) 地域イベントへの参加

地域のイベントにも積極的に参加した。釧路港舟漕ぎ大会への参加をきっかけに、大学生とのパネルディスカッションへの参加。そのイベント主催者とキックオフイベントを創り上げるなど、地域とのつながりが増えることによって、多様な主体との交流の活性化が促進された。写真-9に釧路港舟漕ぎ大会と、大学生とのパネルディスカッションの様子を示す。



写真-9 舟漕ぎ大会（左）と大学生とのパネルディスカッションの様子（右）

c) キックオフイベントの開催

様々な活動を通じて9期計画の推進の機運が醸成

したタイミングで、令和6年11月12日に釧路市観光国際交流センター1階大ホールにて、釧路総合振興局、根室振興局との共催で、9期計画並びに北海道総合計画の紹介や、北海道文教大学地域創造研究センター長小磯修二氏に基調講演をいただき、釧路、根室管内で、地域づくりや観光などの分野で活躍されている4名の方をパネリストとして、「ダイバーシティが導く釧根の未来について」をテーマにパネルディスカッションを行った。写真-10にイベントのチラシとイベント開催の様子を示す。



写真-10 イベントのチラシと当日の様子

イベントの参加者は、会場が365名、WEBが103名と、合計468名もの方々が参加し、期待していた9期計画の浸透や共創の環の広がりなど、イベント開催により期待される効果が十分あったと考えられる。

基調講演・パネルディスカッションでいただいた主な意見を表-3、参加者アンケート結果を図-3に示す。参加者アンケートより、本イベントの満足度について、回答者全体のおよそ9割の方が「満足」「やや満足」と回答しており、北海道総合開発計画の役割・必要性については、回答者全体のおよそ98%の方々が、「深まった」「やや深まった」と回答され、イベントの目的である9期計画の浸透が十分図られる結果となった。

また、キックオフイベントを通じていただいた主な意見では、釧路、根室地域での観光の重要性や、

2050年を担う学生をターゲットにすべきといった意見が寄せられた。

表-3 基調講演・パネルディスカッションの主な意見

分類	主な意見内容
観光	・釧路、根室地域の経済分析では強みは「観光」であり、データ分析し、長期的な視野での議論が重要 ・近隣地域との広域観光を活性化させることで、充実した価値ある釧根地域の観光へ ・インバウンド対応の「言葉の壁」が課題
移動	・公共交通機関ネットワークの確保、高規格道路整備の必要性
定住 交流人口拡大	・交流人口を増やす鍵は、地域外の学生のイベント参加 ・地域の冷涼な気候を活かした長期滞在促進に向けた副業二拠点化の推進

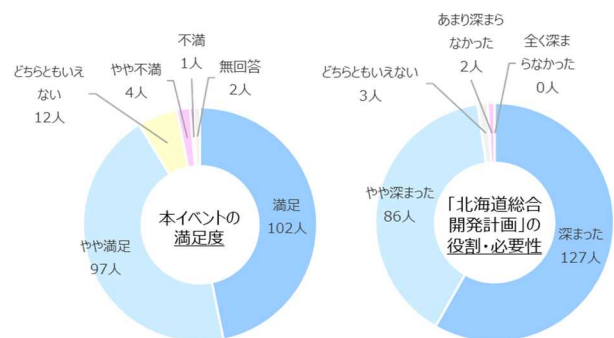


図-3 本イベントの満足度、計画の役割・必要性の理解度

(5) 地域内外のより多くの方々との共創

a) 道東自動車道阿寒IC～釧路西IC開通PR

令和6年12月22日（日）の道東自動車道阿寒IC～釧路西ICの開通に向け、釧路総合振興局、根室振興局、市町村とはもちろんのこと、マスコミなど、官民の連携により、開通に向けたPR活動を行った。また、道東自動車道開通PR旗の作成や、釧路開発建設部の各課所の職員によるX（旧Twitter）において開通カウントダウンなど、様々な工夫により、開通に向けた機運の醸成を図った。写真-11にPR旗を作成した様子や、Xを活用した釧路、根室地域の各スポットで撮影した開通カウントダウンの様子を示す。



写真-11 開通PR旗作成（左）と開通カウントダウン（右）の様子

b) 釧路港ポートセミナーの開催

道東自動車道阿寒IC～釧路西ICの開通を契機としたトップセールスとして、釧路西ICから釧路港まで

およそ4kmと、釧路港までの速達性が向上したことから、本年度の取組を通じて様々な場面で多くいただいた意見として、「高規格道路、港湾、地域公共交通ネットワークの強化」が挙げられたことから、令和7年度からの地域共創のテーマとして、取組を進めるためにも、不凍港である釧路港の価値を高め、利活用促進につながるよう釧路市、釧路港湾振興会等と連携し、北見市において、釧路港ポートセミナーを開催した。写真-12に釧路港ポートセミナーの開催の様子を示す。



写真-12 釧路港ポートセミナーの開催の様子

3. 今後の地域共創の取組の検討

キックオフイベントや地域との意見交換会など、様々な場面でいただいた意見等を大きく6つのテーマに分類し、テーマごとに主な取組の方向性を検討した。

① 高規格道路、港湾、地域公共交通ネットワーク強化 主な取組の方向性

道東自動車道阿寒IC～釧路西IC間の開通を契機に、釧路港の活用促進に向けたひがし北海道地域へのPR活動、企業誘致活動等の推進など。

② 物流の2024年問題への対応

主な取組の方向性

イオン北海道の海路運送、根室スーパーの片荷解消の取組等の好事例を参考に、道東ロジスク参加企業等と連携し、共同輸送・中継輸送等の効率化について検討など。

③ 建設業等の地域産業の担い手確保

主な取組の方向性

建設業の魅力発信の場の創出など。

④ 観光、学生、長期滞在者等の交流人口拡大による地域の活性化

主な取組の方向性

地域外学生、長期滞在者、スタートアップ企業等の呼び込みに向けた取組の推進など。

⑤ 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震等への対応

主な取組の方向性

大学機関等との農業・防災の観点での包括連携協定締結の検討など。

⑥ 輝く北方領土隣接地域の振興

主な取組の方向性

釧路・根室地域の広域観光による滞在型観光の促進など。

これら6テーマを中心に、テーマごとに地域連携課が中心となり、部内の関係各課、釧路総合振興局、根室振興局、市町村、関係機関、民間企業等と共に対応策を検討し、各種施策を創出し、2050年の輝く釧路地域に向けた取組を推進していく予定である。

特に③のテーマについては、令和7年度中に、建設業と他業種とのマッチングを促進するイベント開催に向け、釧路総合振興局、根室振興局、ハローワーク、建設業協会、商工会議所等と調整を進めていく予定である。また、定住人口を増やし、地域産業を維持していく好事例として美幌町で地域おこし協力隊でバスの運転手を民間へ派遣という形で雇用している。協力隊員の中には、3年後に生計を立てることが出来ず、地元へ戻ってしまう方もいるということだが、今回の場合は、3年後はそのままバス会社の正社員として引き続きバスの運転手として美幌町に残る予定である。美幌町の事例を参考に、地域のインフラの守り手のとして地域おこし協力隊を活用できないか、または3年後の就職先として建設業を選択できるような仕組みを釧路総合振興局、根室振興局、市町村と検討していく予定である。

4. おわりに

令和6年度は、地域共創の種をまく期間とし、各テーマにおける関係する釧路総合振興局、根室振興局、市町村、各機関、民間企業等と意見交換や協力体制の構築を図ってきたことから、令和7年度から共創による取組を地域連携課が中心となって本格始動していく予定。

最後に、部内の地域共創に向けた結束力を強めるために地域連携課の職員で釧路開発建設部のオリジナルロゴを作成したことから図-4に紹介する。名刺やプレスリリース、Xなどの広報媒体にロゴを活用することで、地域共創というワードを管内に広く浸透させる効果が期待されることから、令和7年度以降の地域共創の取組にかかる広報媒体にも引き続きロゴを使用していく予定である。



図-4 釧路開発建設部地域共創オリジナルロゴデザイン

参考文献

1) 第9期北海道総合開発計画；北海道開発局，
<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/keikaku/u23dsn000000fqs-att/slo5pa000001cdlp.pdf> (最終閲覧日2025年1月9日)